



仲村千鶴子 議員



録画映像

## DV(ドメスティック・バイオレンス)の防止に関する件

### 問 DV被害への対応は

市長

個別の状況に応じた支援を行っている

## 一般質問

### 問

配偶者等からの暴力を防止し、被害者の保護等を図ることを目的として制定された「DV防止法」では、行政がDV被害を受けた方の相談を受けて、逃げる場所の提供や生活の支援を行うこととされています。

そこで、市のDV被害への対応についてお伺いします。

### 答(市長)

具体的な対応としては、市の窓口や電話を通じてDVに関する相談や情報を受けた際には、配偶者暴力相談支援センターや警察などの専門機関を案内するほか、状況に応じた支援を行い、緊急性が高いと判断される場合には、速やかに警察に通報を行うものです。

一方で、被害者本人や関係者からの通報に基づき、警察、児童相談所などの関係機関が初動対応を行う中で、市に対し

て情報提供や被害者への支援の依頼があった際には、市は関係機関と共に訪問による相談対応、生活支援、民間シェルターとの調整など、個別の状況に応じた支援を行っています。

このほか、住民基本台帳事務におけるDV、ストーカー行為、児童虐待等の被害者が、住民票や戸籍附票の写しの交付・閲覧を制限できる制度により、被害者の安全確保に努めています。

今後も引き続き、DV被害の根絶に向けて、実態の把握と支援体制の充実や啓発活動の強化に努めてまいります。

## 巡回ワゴンに関する件

### 問

利用促進や認知度向上のため、今後の取り組みは

### 答

市長  
持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指す

### 問

地域住民の日常生活の足の確保については、当市において、令和3年3月に「北斗市地域公共交通計画」を策定し、10月から巡回ワゴンを運行しました。

しかし、今日まで地域住民の皆さんの足になっているのか、多くの課題があるように思います。

利用促進や認知度向上のため、市とし

て今後の取り組みについてお伺いします。

### 答(市長)

これまで市広報や町会連合会総会、民生委員研修会などで繰り返し周知するとともに、老人クラブ連合会の協力による沿線老人クラブへのアンケート調査や、運転免許を返納された沿線住民宅の戸別訪問によるヒアリングを基に、住民ニーズに合わせたルート変更を重ね、昨年度は、北海道教育大学函館校と連携した学生目線による巡回ワゴン体験ツアーの実施、利用者個々にオーダーメイドの時刻表を作成し、市職員が同乗するサポート乗車の実施にも取り組み、少しずつですが、市民に巡回ワゴンが認知されつつあると感じているところです。

ただし、教育大生が実施した体験ツアーのアンケートの回答では、巡回ワゴンについて知らないという声もまだ多く、今後も利用促進や認知度向上のため、地道な営業活動を継続していく必要があると考えています。

教育大生からは高齢者大学や福祉施設などでの周知活動が効果的なのではないかと提案がありましたので、今後の取り組みの参考にさせていただくとともに、今年度も引き続き、教育大生との連携を図ってまいります。

また、これまでは利害関係者との調整が必要であり、沿線住民の利用ニーズが高い目的地であっても、なかなか路線の

延長が実現しなかった巡回ワゴンの長年の課題について、今年度は北斗市地域公共交通活性化協議会の理解と協力が得られそうな感触であり、順調にいけばこの10月から、久根別まで路線を延長できるめどが立ちそうなので、これまで利用を躊躇(ちゅうちょ)されていた方にも、ぜひ買い物や通院の際にご利用いただきたい。

協議会メンバーの交通事業者からは、公共交通が地域に定着するまでには、一定の年月が必要であるとの声も受けています。

これからも様々な声を基に、利用促進及び認知度向上につながるよう、地道な営業活動に努めるとともに、バスや鉄道・タクシーなど既存の公共交通との共存共栄と、持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指してまいります。



巡回ワゴンに乗車する利用者(上磯駅前商店街)